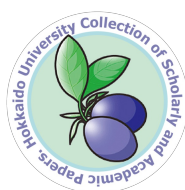




Title	国立大学における公開講座企画運営への学生参加の状況
Author(s)	三上, 直之
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 24, 181-183
Issue Date	2017-03
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.24.181
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65048
Type	departmental bulletin paper
File Information	2417.pdf



Student Participation in the Planning and Management of Open Lectures at National Universities

Naoyuki Mikami *

Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

国立大学における公開講座企画運営への学生参加の状況

三上 直之 **

北海道大学高等教育推進機構

Abstract — This paper reports on trends in student participation in the planning and management of university open lectures, based on inquiries to the 25 national universities participating in the Association of Lifelong Learning Centers of National Universities. In response, 15 member universities provided more than 30 cases that could be classified into three categories depending on the form of student participation (in-class or extra-curricular activities, or paid part-time work) as well as the roles that participating students played. These three categories are: (1) paid part-time work as assistants, (2) co-curricular activities in class or at laboratories, and (3) extra-curricular activities such as voluntary group activities or ad hoc student projects.

(Accepted on 13 February, 2017)

1. 調査方法

筆者らは2016年度、「北海道大学公開講座（全学企画）」の運営に総合教育部の1年生を参加させ、本学の教養教育の場として大学公開講座を生かす試みを実施した。全学教育において筆者が以前から開講している一般教育演習（フレッシュマンセミナー）「聞く力・話す力のトレーニング」の一環として、学生が公開講座で講師を務める教員の研究について、事前に講師本人へのインタビューを含みリサーチをし、講座当日に講師紹介のスピーチをする、という

実習を行った¹⁾。これに関連して、今後の取り組みの参考とするため、他の国立大学において、学生が公開講座の企画運営に参加している事例を収集した。

2016年9月26日、27日に香川大学で開かれた第38回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会に出席する機会を利用し、全会員大学（25大学）に対して、「大学公開講座の企画や運営に、授業の一環または課外活動として学生が参加している事例」の情報提供を依頼した。同協議会は、生涯学習教育研究センターや地域連携推進センターなどの生涯学習

*) Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan
E-mail: mikami@high.hokudai.ac.jp

**) 連絡先：060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学高等教育推進機構

系センターや、類似の機能を担う組織（本学の場合、高等教育研究部）を有する国立大学で構成されている。年1度、研究交流のために開催される協議会に際して、各校は、他の会員校における生涯学習や地域連携に関する取り組み状況に関して、具体的にテーマを定めて一斉に情報提供を求める承合事項を提案できる。今回の情報提供依頼は、このしくみを活用した。各大学からの回答は、情報提供を求めた会員校の担当者（本件場合は筆者）からのコメントを添えて、協議会当日に配付される。本稿は、筆者が2016年9月の協議会に際して提出したコメントに加筆・修正を加えたものである。

今回の筆者らの承合に対しては、15校（本学も含む）から学生参加の事例があるとの回答があり、計30件以上の事例を集めることができた。寄せられた各事例において、対象となる公開講座等の実施主体や性格、その中で学生が担う役割などは多様であったが、(a) 学生参加の形態（授業か、課外活動か、それともアルバイトか）と、(b) 当該事業等の中で学生が担う役割の2点に注目すると、公開講座の企画運営への学生参加は次の三つの類型に分けられることがわかった。

2. 学生参加の3類型

2.1 運営補助アルバイト型

学生がアルバイトとして公開講座等の運営補助を行うものである。今回は6大学から回答があったが、今回あえて記述しなかったものの、このタイプであれば実際には行っているという大学は他にもあるものと思われる。「当日の受付・資料配布・アンケート回収など、運営上の補助的業務」（鳥取大学）だけでなく、専門人材育成事業の講座において「分析機器の使用法や測定結果の解説等の指導補助」を大学院生のティーチングアシスタント（TA）が担うようなケース（高知大学）もある。いずれにしても企画立案への関与はほとんどなく、公開講座の運営の一部分を教職員の指示のもとで受け持つ形となる。学生参加としてはミニマムな類型といえる。

2.2 「授業の一環」型またはゼミ・研究室活動型

正規的教育課程の一部として、すなわち授業科目もしくはゼミ・研究室の活動の一環として、公開講座等の企画運営に取り組むものである。香川大学や岐阜大学、和歌山大学、鹿児島大学から、この類型の事例について回答があった。

「授業の一環」型としては、例えば香川大学の社会教育主事特別コースの授業科目で、自治体の協力を得て、学外の文化財等を会場とした子ども向け公開セミナーを企画・実施する実習が行われているとのことである。今号の別稿で報告した一般教育演習「聞く力・話す力のトレーニング」内の実習として全学公開講座を活用する事例も、この「授業の一環」型に分類される。

後者のゼミ・研究室活動型としては、鹿児島大学水産学部のある研究室が生涯学習系センター（COCセンター）と共同で行う親子向け公開講座の運営に、研究室の学生が参加する取り組みがある。講座の企画自体は教員側が行うが、学生にとっては、参加者のアイスブレイクやグループ活動の進行係などを担当することで、自らが日頃学んでいる事柄を他人に伝える学習の機会になっているという。和歌山大学観光学部の宇宙関係のゼミが地域連携・生涯学習センターと共同で行っている観月会も、同様にゼミ・研究室活動型の事例だが、こちらは学生が「企画・実施・運営」まで担うとのことである。

総じてこの類型は、学生の担う範囲の大きさにかんがりの幅があるのが特徴だと言える。

2.3 課外活動・学生プロジェクト型

学生が、サークル活動、部活動などの一環として、あるいは任意のプロジェクトチームを組織して公開講座等の企画運営に取り組むものである。今回の三つの類型の中では、企画運営に占める学生の役割は最も大きい。

サークルや部活動の一環として公開講座等の企画運営に取り組むものでは、弘前大学や大分大学のよう、子育てや学習支援など教育系のサークルによるものがある一方、富山大学の天文同好会や、琉球大学のサッカー部やハンドボール部のように、自ら

の活動分野（天文や体育など）を生かして公開講座を実施するものもある。琉球大学の事例では、児童向けの体育教室に加え、他の科目の学習支援も同時に行っているという。

他方、大学が公募する大学開放事業や地域貢献活動の支援プログラムに、学生らがプロジェクト提案をして採択され、一定の助成を得て活動するパターンもある。奈良女子大学や和歌山大学（高等教育機関コンソーシアム和歌山）、鳥取大学において、こうした学生プロジェクト公募の枠組みがあるとの情報提供があった（1件当たりの採択限度額は10万円～20万円以内）。今回の回答では、実際にどんな学生グループが応募し採択されているのかまではわからなかったが、プロジェクト提案のために新たにチームを組むケースばかりでなく、ゼミや研究室、サークルなど既存の集団が提案母体となることも少なくないだろう。したがってこのタイプは、サークル活動等の一環として取り組むタイプや、前項で述べたゼミ・研究室活動型とも重なり合う部分がある。

この他、地域に密着した公開講座の運営に学生が参加する事例として、北海道教育大学（岩見沢校）では、地元市との連携で実施するスポーツや健康運動に関する公開講座の講師を、スポーツ科の学生が務めている、という。また、高知大学の出前公開講座では、グループワークでの受講者の活発な意見交

換を促す目的で、学生が各グループに加わっている事例があるとのことであった。

謝辞

承合事項のとりまとめなどで大変お世話になりました清國祐二先生を始めとする香川大学の皆様と、回答を頂いた全国国立大学生涯学習系センター研究協議会の会員校の皆様にお礼申し上げます。

注

- 1) 全学教育の一般教育演習と「北海道大学公開講座(全学企画)」をリンクさせる試みについては、今号掲載の別稿（三上 2017）を参照。

文献

三上直之（2017）, 「全学型公開講座を活用した大学1年生向けの演習授業：一般教育演習「聞く力・話す力のトレーニング」」, 『高等教育ジャーナル』 24, 145-160